作物名

（ 2021 ） 年 度 委 託　　（ り ん ご ）

対 象 病 害 虫 名・学 名　赤星病　*Gymnosporangium yamadae*

試験場名　一般社団法人　日本植物防疫協会　　担当者氏名　日植防　太郎

1. 試 験 目 的　防除効果および薬害の検討

2. 試 験 方 法　試験地場所　東京都北区中里 2-28-10　一般社団法人日本植物防疫協会

対 象 病 害 虫 発 生 状 況　多発生(接種:感染源設置)　5 月 7 日に初発を確認した。

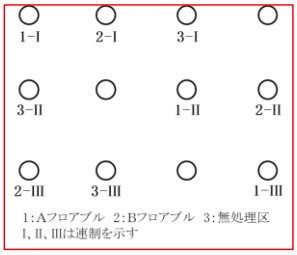
耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:ふじ　樹齢:10 年生　わい性樹　露地栽培　展葉開始日:2021年 4 月 2 日　開花始め:4 月 15 日頃

施肥(10a 当たり):豊葉緑(2.5-2.5-0.5)200kg、エコシャインマスカット・巨峰・ピオーネ 3 号カリ無し(6-5-0)100kg、粒状 BM ようりん(0-20-0)100kg、苦土石灰 100kg　栽植距離 3m×3m　土性:埴土

試験期間中の防除薬剤:4/16 モスピラン顆粒水溶剤、4/25 トアロー水和剤 CT、5/7 アディオン水和剤、5/22 スプラサイド水和剤

区制・面積・試験区の構成　1 区 1 樹 3 連制



1:Aフロアブル 2:Bフロアブル 3:無処理区
I、II、IIIは連制を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日)2021年 4 月 9 日、4 月 19 日、5 月 1 日および 5 月 13 日の計 4 回。

(作物のステージ)散布開始時は展葉初期、2 回目散布時は開花期、3 回目散布時は落花後、4 回目散布時は幼果期。

(処理方法)背負式バッテリー噴霧機を使用して、1 樹当たり 2.5～3.0L の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響)5/1 は散布 7 時間後の降雨で、それまでに薬液が乾いていた。降雨の影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

月日	4月			5月			6月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
平均気温(℃)	9.6	12.3	15.9	16.0	17.7	20.8	20.6	20.1	22.9
降水量(mm)	25.0	3.0	13.5	18.5	57.5	76.0	53.5	63.5	35.5

観測地点:試験場内常設観測機器

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日)　薬効:6 月 4 日(最終散布 22 日後)

薬害:4 月 19 日(2 回目散布前)、5 月 1 日(3 回目散布前)、5 月 13 日(4 回目散布前)

6 月 4 日(最終散布 22 日後)

(調査方法)各区より任意に 20 新梢を選出し、基部から 2 葉を除いた完全展開葉の全葉について、下記の基準に従って程度別に調査し、発病葉率および発病度を算出した。防除価は発病度の平均値より計算した

調査に用いた発病指数　0:病斑なし、1:病斑数が 1～5 個、2:病斑数が 6～15 個、3:病斑数が 16 個以上。

発病度を求める式:　発病度＝Σ(程度別発病葉数×指数)÷(調査葉数×3)×100

薬害は、葉や花または果実を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

－:薬害を認めない。＋:軽微な薬害症状を認める。＋＋:中程度の薬害症状を認める。＋＋＋:重度の薬害症状を認める。

その他(特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

感染源として、カイヅカイブキをりんご圃場周辺 2 カ所に、平成 25 年 1 月より植栽している。

コメントの追加 [注1]: 学名の表記方法について
以下アドレス内(http://www.jppa.or.jp/test/shiken.html)の学名リストに代表的な学名を記載しています。ご活用下さい。

コメントの追加 [注2]: 土性の表記について
・壌土、砂壌土、砂土など。分からない場合は不明と記述

コメントの追加 [注3]: 試験期間中の防除薬剤(殺菌又は殺虫剤)について
・使用月日、薬剤名を記載。試験開始前であっても試験に影響があると考えられるものは記述する。使用していない場合は「なし」と記載する。

コメントの追加 [注4]: 気象条件について
・試験開始から最終調査日までの平均気温、降水量を表またはグラフで示す。
・データの引用元を付記する。

コメントの追加 [注5]: ・薬効と薬害の調査日が異なる場合はそれぞれ記載。
・調査月日と方法の項目を分けずにまとめても可。
・薬害は、いつ、どの部位について観察したかわかるように記述する。グレードは適宜定めてよい。

コメントの追加 [注6]: 特記事項、接種について
・接種した場合はここに記載。病原菌の由来や接種方法(接種量や箇所、薬剤処理との時間的関係)を記載

作物名

（ 2021 ） 年 度 委 託　　（ り ん ご ）

対 象 病 害 虫 名・学 名　赤星病　*G. yamadae*　　**試験場名**　一般社団法人　日本植物防疫協会

3. 試 験 成 績

薬効試験

供試薬剤	処理方法	連制	調査葉数	程度別発病葉数 0	1	2	3	発病葉率(%)	発病度	防除価
2) Aフロアブル	3000倍散布	Ⅰ	285	179	73	31	2	37.2	16.5	
＊＊＊＊%		Ⅱ	284	167	72	37	8	41.2	20.0	
		Ⅲ	277	186	61	27	3	32.9	14.9	
Lot. No.＊＊＊＊		**平均**						**37.1**	**17.1**	**56.9**
対) Bフロアブル	4000倍散布	Ⅰ	279	254	25	0	0	9.0	3.0	
＊＊＊＊%		Ⅱ	288	230	51	7	0	20.1	7.5	
		Ⅲ	291	249	40	2	0	14.4	5.0	
Lot. No.＊＊＊＊		**平均**						**14.5**	**5.2**	**86.9**
無処理	－	Ⅰ	273	78	76	81	38	71.4	43.0	
		Ⅱ	312	128	56	86	42	59.0	37.8	
		Ⅲ	277	113	52	70	42	59.2	38.3	
		平均						**63.2**	**39.7**	

薬害試験

供試薬剤	処理方法	連制	薬害 4/19 葉	4/19 花	5/1 葉	5/1 花	5/1 果実	5/13 葉	5/13 果実	6/4 葉	6/4 果実
2) Aフロアブル	3000倍散布	Ⅰ	＋	－	－	－	－	－	－	－	－
		Ⅱ	＋	－	－	－	－	－	－	－	－
		Ⅲ	－	－	－	－	－	－	－	－	－
対) Bフロアブル	4000倍散布	Ⅰ	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		Ⅱ	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		Ⅲ	－	－	－	－	－	－	－	－	－

4. 考 察

2)Aフロアブル 3000倍散布　DCC±

本処理は、対照処理と比較して劣る効果を示した。無処理と比較して防除効果は認められるがその程度はやや低かった。効果はやや低いが実用性はあると考えられる。

薬害は、葉の一部が若干褐変したものの花や果実等に影響はみられなかったため、実用上問題ないと考えられた。

コメントの追加 [注7]: 試験成績について

・結果を表形式で記載。

・連制ごとまたは調査地点ごとに結果を表示し、合計値または平均値を表示する。

・評価に用いた数値（発病指数、発病率および防除価等）も記載する。

・薬害は調査時期がわかるように表記。

・2021 年度より表中の無処理区の薬害記号は記載不要となりました。

紙面のスペースによっては“後述”と記載し、表を末尾に記載しても可。

コメントの追加 [注8]: 考察について

・実用性の判定は基本的に対無処理判定を重視する。対無処理判定と異なる判定とする際は、その理由を明記する。